

8. 総合評価

8.1 評価の統合

2004年（平成16年）の評価書（生物編）の自然評価の値と、2005年（平成17年）の人とのかかわり評価の値を統合し、その評価値の合計を5段階で評価しました。

大地区の評価はA～E、小地区の評価はa～eで示しました。

総合評価：

評価値の合計値（自然評価値+人とかかわり評価値）の大きさを5段階評価

◇自然評価（生物編）

評価	評価値
a	5
b	4
c	3
d	2
e	1

◇人とかかわり評価

評価	評価値
a	5
b	4
c	3
d	2
e	1

評価値を合計

◇総合評価

評価値合計	総合評価
9～10	a
7～8	b
5～6	c
3～4	d
2	e

■総合評価の統合の流れ

評価に含めなかった 環境を悪化させる要因

今回の評価は、現時点における里山らしさを示す要素（プラス要素）をとりあげて評価したものです。里山らしさを阻害する要素（マイナス要素）については評価の対象としませんでした。

しかし、現在同じ評価であっても、近い将来評価が下がると考えられる地区と、将来も評価が維持できると考えられる地区とがあります。

将来評価が下がる要因は、大別して2種類あります。ひとつは、大規模な地形の改変や昔からの伝統文化が衰退するなど、評価の対象そのものが消失すること、もうひとつは、不法投棄や景観の破壊など、環境が劣化することです。

現在、土屋や吉沢の雑木林沿いには、大型家具や家庭電化製品、オートバイ、古タイヤなどが捨てられていたり、谷戸地の不法な埋め立てが行われている場所がみられます。

これらのマイナス要因のある地区は、改善されなければ、現在の評価が高くても、将来にわたり人と自然が調和した良好な環境が維持できるとは限りません。



不法投棄禁止看板の隣に捨てられたゴミ
2005年12月2日撮影

8.2 評価の結果

2004年（平成16年）の自然評価（生物編）と、2005年（平成17年）の人とのかかわり評価の結果を統合しました。評価の結果は下表のとおりです。

◇ 総合評価の結果一覧

大地区の評価			小地区の評価				
地区	総合評価	自然評価	人とのかかわり	地区	総合評価	自然評価	人とのかかわり
I 座禅川上流			1	a	a	b	
総合	自然	人とのかかわり	2	a	a	b	
A	A	A	3	b	b	b	
II 鷹取山山麓			4	b	b	c	
総合	自然	人とのかかわり	5	b	b	b	
A	A	B	6	c	d	c	
III 神奈川大学周辺			7	a	a	a	
総合	自然	人とのかかわり	8	b	c	b	
A	B	A	9	a	a	b	
IV 金目川段丘			10	a	a	b	
総合	自然	人とのかかわり	11	a	b	a	
C	C	C	12	a	a	b	
V 金目川低地			13	b	b	b	
総合	自然	人とのかかわり	14	b	c	b	
B	B	B	15	a	b	a	
VI 不動川中流			16	b	c	a	
総合	自然	人とのかかわり	17	b	c	b	
B	C	B	18	b	b	c	
VII 遠藤原台地			19	d	d	d	
総合	自然	人とのかかわり	20	c	c	c	
C	C	C	21	b	c	b	
VIII ゴルフ場			22	a	b	a	
総合	自然	人とのかかわり	23	b	b	b	
C	C	D	24	c	d	c	
			25	b	d	a	
			26	b	c	a	
			27	c	c	c	
			28	c	c	c	
			29	d	d	d	

大地区の評価

A・B・C・D・E

評価高 ← → 評価低

※大地区の評価は、小地区の評価を積み上げたものではありません。

小地区の評価

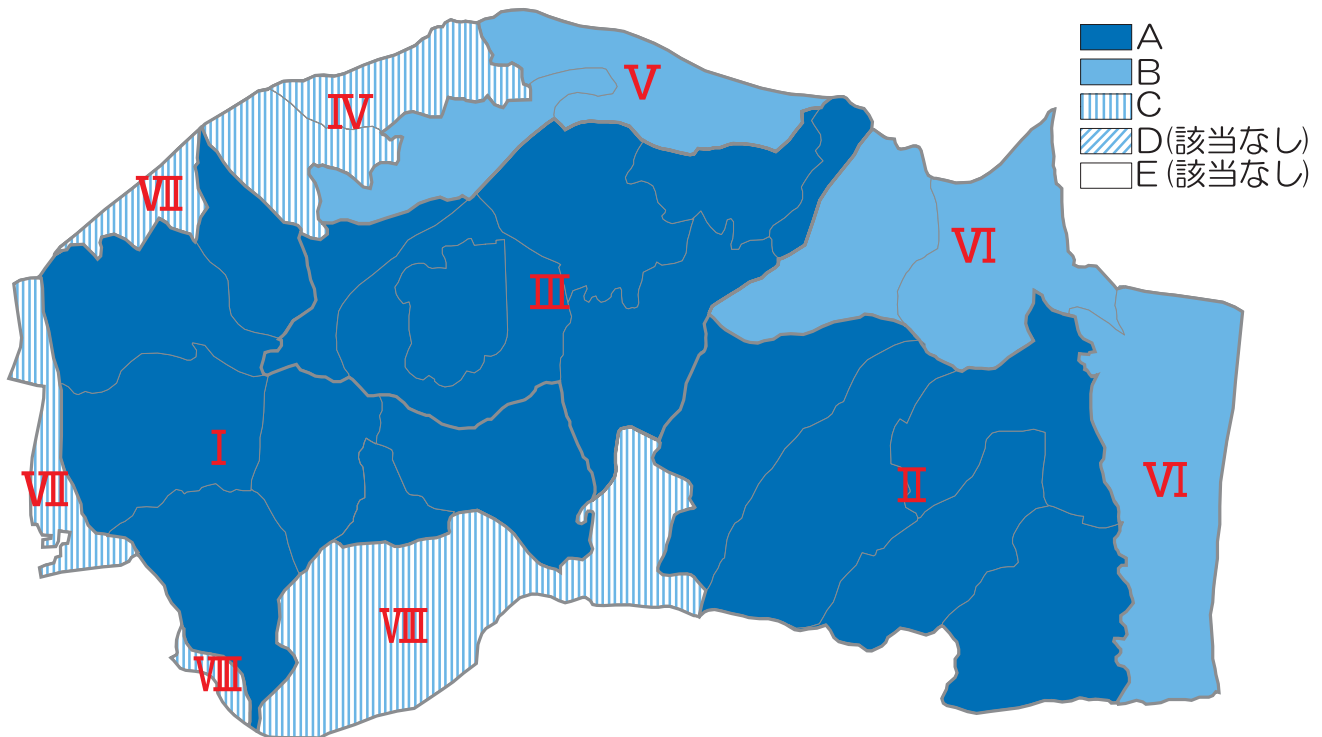
a・b・c・d・e

評価高 ← → 評価低

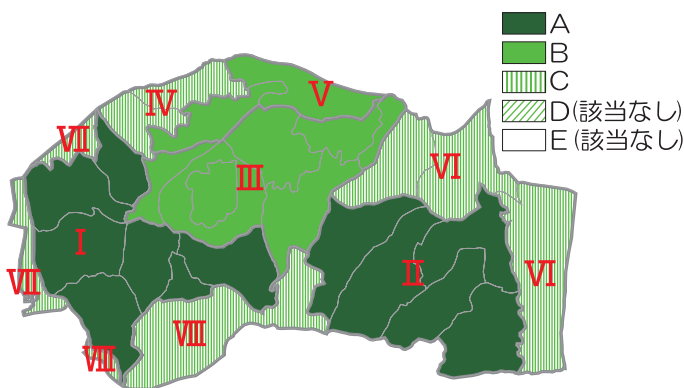
8.2.1 大地区

自然評価（生物編）と人とのかかわり評価を統合した総合評価を下図に示しました。座禅川上流（Ⅰ）と鷹取山山麓（Ⅱ）、神奈川大学周辺（Ⅲ）がA評価となりました。これらの地区は、良好な自然が残され、かつ、「里山らしい」人とのかかわりが維持されている地区を示しています。昔ながらの「里山らしさ」が、もっともよくみられる地区といえるでしょう。次いで、金目川低地（Ⅴ）と不動川中流（Ⅵ）が、B評価となりました。ゴルフ場（Ⅷ）と地区の大半が農地である金目川段丘（Ⅳ）と遠藤原台地（Ⅶ）は、C評価となりました。D、E評価の地区は、ありませんでした。

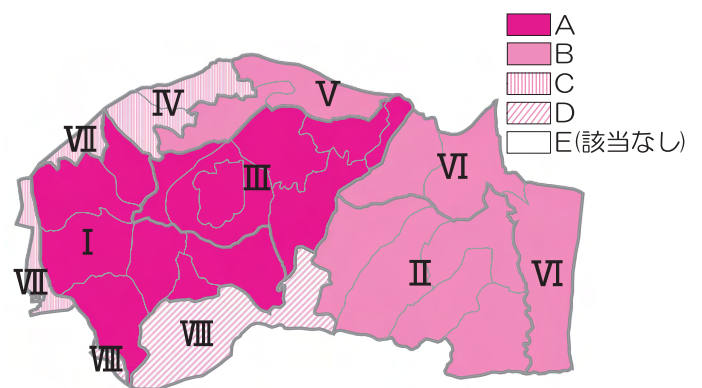
西部丘陵地域は、緑が多く生物が豊かであり、人と自然との接点も多くあります。人文・歴史資源も豊富に残されています。評価結果からは、このような特長を反映して、西部丘陵地域が全体的に、生物面からみても、自然と人とのかかわりの多さからみても、人と自然が調和した関係にあることが読み取れます。



■ 大地区 総合評価



■ 自然



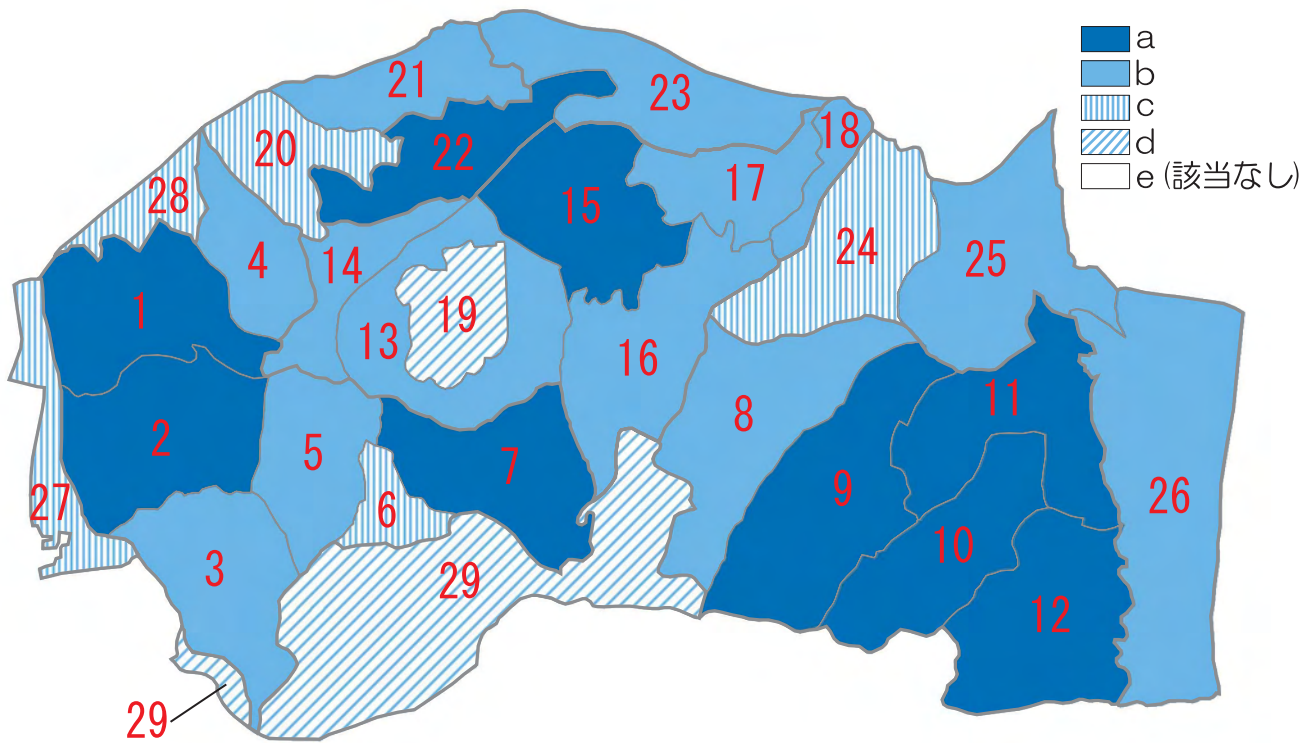
■ 人とのかかわり

8.2.2 小地区

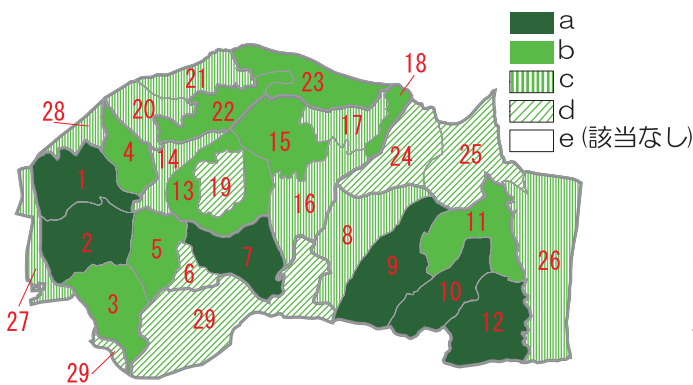
大地区をさらに細分化した小地区の評価は、下図のとおりです。自然評価では樹林がまとまった地区（1,2,7,9,10,12）がa評価になりました。それに対して、人とのかかわり評価では、樹林地に接して集落がある地区（7,11,15,16,22,25,26）がa評価となりました。

総合評価では、駒ヶ滝周辺（1）や愛宕山周辺（2）、琵琶（7）、庶子分（15,22）、鷹取山山麓（9,10）、上吉沢の八剱神社周辺（11）、下吉沢の松岩寺付近（12）がa評価となりました。

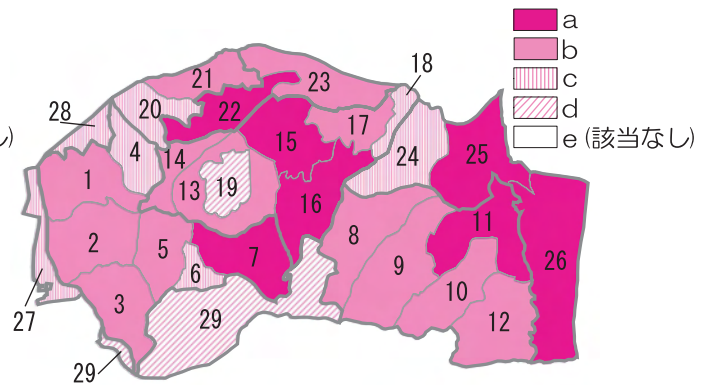
これらの小地区は、A評価となった大地区（Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ）に含まれており、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ地区の中で、もっとも重要であるといえます。



■ 小地区 総合評価



■ 自然



■ 人とのかかわり